

人道的危機に直面するパレスチナ・ガザ地区

パレスチナ現地代表 小林 和香子



■新たに栄養センターに通うことになった子どもとお母さんたち

■「隔離」が危機を招く

○七年七月現在、パレスチナ・ガザ地区は人道的危機を迎えています。六月中旬のハマスによるガザ地区の治安掌握以降、その治安状況は格段に良くなりました。家族連れが海水浴に出かけたり、結婚式に出かけたり、夜中まで町を歩く光景を目にします。

しかし、同時にガザ地区は外の世界から隔離され、経済と生活環境は悪化、人々は将来の不安を抱えています。現地NGO「人間の大地」は、食料と清潔な水と衛生環境の十分な確保ができない現在の状態は、特に子どもたちの間での感染症や栄養失調の増加につながると警鐘を鳴らしています。また、国連難民救済事業機関（UNRWA）は七月十五日、ガザ地区が人道危機に直面しているとして緊急支援を呼びかけました。

■危機に囲まれた生活

○食料危機・ガザ地区の人々の約八割は援助機関からの食料支援に頼っています。これは、以前ガザ地区が緊急事態とされた〇二年時の五割からさらに悪化しています。すでに多くの家庭が食料購入のために財産の売却や借金をして、新たな緊急事態を乗りきる余力はありません。人道支援として配布される食料では十分な栄養を確保できず、新鮮な野菜や肉が必要なのに、価格の高騰によりさらに手が届かなくなっています。

○公共保健の危機・食料や医薬品に加え、全ての資機材がガザ地区へ運搬されなければ「人道のおよび公共保健の危機」に直面すると、UNRWAは発表しています。家屋破壊された難民の住宅建設や汚水処理工場建設、保健所建設などに必要な建設資材の欠乏により、人道的目的の建設事業が中断しています。

ガザ地区では毎日四〜五時間停電になります。発電所の修理や電力容量増加のための機材が持ち込めないためです。早急に修理がされなければ、発電所自体が停止する恐れもあります。電気の供給の制限や停止は、水の供給の停止や食料の腐敗にもつながります。

また、汚水処理場建設停止のため、未処理の汚水が貯水池に溜まるばかりです。〇七年二月には、ある村で貯水池が決壊して村が汚

水に浸水してしまい、JVCは緊急支援を実施しました。

○経済危機・イスラエルへの出稼ぎはできなくなったままです。また、ガザ地区の限られた工業は、原材料の九五%、機材や修理部品の八〇%を輸入に頼り、逆に生産物の多くをイスラエルへの輸出に頼っています。境界が完全に閉鎖されてからの一カ月で、三千百九十の工場・企業が閉鎖され、少なくとも六万五千八百人が臨時に解雇されています。

○帰宅拒否・エジプトとの境界も閉鎖されたままで、ガザ地区の住民六千人以上がエジプト側で待たされています。多くは境界沿いの民家から食料の施しを受けるなどして生活しています。JVCの協力団体の代表も、国際会議に出るため六月初旬にガザ地区を離れてから、約二カ月間エジプトで足止めされています。

■緊急支援を再開

この状況を鑑みて、JVCは緊急支援を再開しました（下囲みを参照）。前回実施した同様のガザ緊急支援は、政治的・経済的回復の兆しが見えたことで一旦は終了したものの、新たな人道危機に見舞われ、今回支援再開を余儀なくされました。目まぐるしく変化する政治的情勢の影響を受けるのはいつも子どもたちです。この緊急支援で小さな子どもたちの生きる力を支えていきたいと思えます。

◆栄養食と調理指導を

現地NGO「人間の大地」を通して実施する今回の支援は、急増が予想される栄養失調児と、小麦粉などに含まれるグルテンを消化できないセリアック病の幼児を対象にしています。栄養失調児には、前回の緊急支援と同様に、栄養食を提供すると同時に母親への栄養教育や調理指導を行ないます。また、セリアック病の子どもたちには、グルテンが含まれていない小麦粉の提供と母親への調理指導を行ないます。

支援を開始してから、一週間で三十人以上の栄養失調の子どもが新たに通院しています。また、ここ数日は私たちの予測を上回り、毎日新たに約三十人もの子どもたちがセンターを訪れており、事態の深刻さに改めて気づかされています。

（〇七年二月までのガザ地区への緊急支援に関しては、本誌一二八号をご参照ください）

※注①・The Palestinian Private Sector Coordinating Council（PSCC）の発表より。